

2018 年度

国 語
(2 期)

(答はすべて解答用紙に記入すること)

(時 間 45分)

番 号		氏 名	
--------	--	--------	--

〔一〕

次は鉄道車両のデザインを多く手がけてきた水戸岡鋭治さんの文章です。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。
(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

デザインをはじめて数年経ったデザイナーには、得意技が生まれます。

この得意技というのは、自分が成功した経験によって培われていきます。私自身も多くの経験のもとに生み出したデザインから自分の得意技が磨かれていきました。もちろん、それはそれでいいのですが、デザインという仕事は不都合の連続であって、自分の得意な組み合わせにさせてもらえないことが多いということを覚えておいてください。

公共デザイン、とくに車両デザインの仕事において、とりわけ重要な三つの要素があります。それは「予算」「スケジュール」、そして「技術」です。この三つの要素を上手くコントロールすることで自分の得意技や成功体験が生まれるわけです。

② その一方で、この三つの要素が自分にとっての不都合にもなるわけで、予算もスケジュールも技術も、さらには自分の能力と担当者の考え方が一致することはほとんどないわけです。つまり、デザインという仕事に取り組むということはいかに無理難題をクリアしながら仕事を進めるかということでもあるのです。

そのようなときに、「自分はこれが得意だから」といって得意技を出す前に、まずは相手の要望をしっかりと受け入れ理解することが、自分の得意技に持ち込んでいく秘訣だと思えます。自分の得意技に持ち込むことができれば、予算を半分にすることもできますし、培った技術でスケジュールを短縮することもできます。

この三つの要素をコントロールし仕事を円滑に進めていくために必要なことは、「比較しない」「不都合を受け入れる」「対立構造をつくらない」ということです。これは仏教の教えでもあるのですが、これを理解することでデザイン活動をするために必要な基本的行動原則を身につけることができます。

③ まずは「比較しない」ということについて。人間は何に対しても比較したがる性質があります。それは企業にしても人の心にしても、そしてデザイナーのつくるデザインにしてもそうです。

デザインはつくる人の感性によってさまざまなバリエーションがあるため、これという正解がありません。そのデザインにはそのデザインの良

さがあつて、世の中で言われる「優秀なデザイン」というのは、ある規則的な一部を切り取った断面にすぎないのです。

私がよく事務所のスタッフに言い聞かせているのは、世の中にはデザイナーの数だけさまざまなデザインがあり、それらは決して比較できるものではないということです。確かに、ある仕事をはじめの前にはいろいろなデザインを参考にすることがあります。でも、仕事が来た瞬間に比較をやめて、自分の持ち味を出さなければいけないと言っています。そうしなければ、自分の得意技が出せなくなるだけでなく、モノづくりにおける自分の軸や志向がずれてしまい、デザインが散漫になってしまうからです。

そして、このなかでも最も重要なのは「不都合を受け入れる」ということです。

仕事には常にいろいろな不都合があるものです。その不都合を受け入れ、みんなの力でそれを乗り越える。あるいは不可能だと思われたことをやり遂げる。それによって新しいシステムが生まれていきます。

人間はこの不都合を受け入れれば受け入れるほど、能力が伸びていきます。都合の悪いことを克服することで、それまでの自分にはなかった発想やスキルが身についていくからです。つまり、デザイナーとして成長しようと思つたら、どんどん不都合を受け入れていかなければなりません。これはデザインにかぎったことではなく、たとえば担当者がすぐに書類を回すとか、決断を即座にするとか、注文の連絡をスピーディーに行うとか、そういうことを日常的に心がけるだけでも一割くらいのコストはすぐに下がります。

さらには、それぞれのセクションで能力を最大限發揮して新しいシステム（やり方や方法）を見つけていけば、コスト削減だけでなく、そこで培った新しいスキルは、そのまま自分自身の資産として蓄積していきます。このような方法は、ほかの仕事でも確実に活用できるでしょう。

つまり、難しいと思われる仕事に関わることは、結果的には能力の開發になるわけです。

そして、最後が「対立構造をつくらない」ということです。

たとえば、会議にしても欧米人は自分の都合を押し付けて合理的に論破することを得意としていますが、日本人は無意味な対立を避け、何かの決定をする前日に酒を飲みながらお互いを理解し、最適な答えを見つけ出すために話し合ったりします。私はこれを「日本人らしい美しい知恵ある談合」と呼んでいます。談合と言ってしまうえば聞こえは悪いのですが、そのようにして知的な答えを見つけてきたのも確かです。それには質の高い、戦いをしない、平和と質素を保った日本人の良き民族性が基本にあると思います。

こうした考え方をもとに、デザイナーひとりひとりが自分の意見をしっかりと持ち持って自我を確立し、日本人の知的センスと世界中の新しい文化を

組み合わせていくのが、デザインの義務ではないかと思うのです。

(水戸岡鋭治著『電車をデザインする仕事』より一部改変)

問一 〱線Ⅰ「培つちかわれ」、Ⅱ「組み手」のことばの意味はどれが正しいですか。次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ 「培われ」 ア 泥どろまみれにされ イ 証明され ウ 養われ エ 影えい響きやうされ オ 意地を張られ

Ⅱ 「組み手」 ア 形 イ 基準 ウ とつくみあい エ 計画 オ 攻こう撃げき

問二 〱線①「デザインという仕事は不都合の連続」であることから、「デザイン」をすることを、筆者はどんなことだと考えていますか。本文から三十字以内でぬき出し、その始めと終わりの五字を答えなさい。

問三 〱線②「その一方で、この三つの要素が自分にとっての不都合にもなる」について、次の問いに答えなさい。

(Ⅰ)「その」とは何をさしていますか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア デザインをはじめて数年経験を積むと、デザイナーにはだれしも得意とくい技わざというものが生まれてくるということ。

イ デザインの得意技というのは、デザイナー自身が成功した経験によってそだてられ、磨ひかされてくるということ。

ウ デザインという仕事は、自分のやり方にさせてもらえることはなかなかなく、不都合の連続であるということ。

エ 車両デザインの仕事においてはとりわけ、予算、スケジュール、技術の三要素が重要になってくるということ。

オ 公共デザインでは、予算、スケジュール、技術を上手にコントロールすることで得意技が生まれるということ。

(2) 「その一方で、この三つの要素が自分にとっての不都合にもなる」とはどういうことですか。その言いかえになるように、次の□に一字ずつ入れる形で答えなさい。ただし1～3は本文からぬき出し、4は自分で考えて答えなさい。

1 □□、2 □□、3 □□□□□□は、デザイナーにとって、大きな4 □□にもなるということ。

(3) またこのような不都合なことが起こったときには、どのようにすることが、自分の得意な方向にもっていくことになると言っていますか。本文から五十字でぬき出し、その始めと終わりの五字を答えなさい。

問四 — 線③ 「比較ひかくしない」とありますが、「比較」するとどのようになってしまいましたか。その説明の部分を本文からぬき出し、始めと終わりの五字を答えなさい。

問五 — 線④ 「最も重要なのは「不都合を受け入れる」とありますが、仕事を成し遂とげる上で、なぜ「不都合を受け入れる」ことが重要なのですか。説明しなさい。

問六 — 線A～Dのことばの意味は、どれですか。後のア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一回しか使えません。)

ア 速度 イ 技術 ウ 費用 エ 利益 オ 迅速じんそく カ 部門

問七 — 線⑤ 「日本人らしい美しい知恵ちえある談合だんごう」について、次の問いに答えなさい。

(1) これは、どうすることを指していますか。本文のことばを使って四十文字以上、五十字以内で説明しなさい。

(2) このような「談合」は、何にもとづいていると言っていますか。本文からぬき出し、その始めと終わりの三字を答えなさい。

問八 本文の主張として正しいものはどれですか。次の中から記号で二つを選び、答えなさい。

- ア すぐれたデザインを完成させるには、真つ先にデザイナーの得意技を示すことが肝心である。
- イ 企業担当者とデザイナーの考えの不一致は、デザインを完成させる上で障害となる大問題だ。
- ウ 他人のデザインと、自分のそれとを比較し相対的に評価できるといふことは、必要不可欠だ。
- エ 進んで「不都合」を受け入れる姿勢をもつことが、デザイナーの成長においては求められる。
- オ いつでも合理的に判断し、相手を論破できる欧米人には、日本人よりも優れた民族性がある。
- カ デザインの使命とは、日本人の知的センスと、世界中の新しい文化を融合させることである。

問九 次の文章は筆者水戸岡鋭治みとおかえいじさんに関する文章です。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ここ数年、全国各地に乗って楽しい観光列車が次々と生まれている。そのブームのきっかけを作ったのは、JR九州とJR九州が起用した外部デザイナーの水戸岡鋭治だ。水戸岡が最初に走らせた列車は一九八八年の夏、九州に誕生した。その列車は車窓から海が見えやすいように斜めに座席を配置するなど、今までにない斬新なデザインであると当時話題を呼んだ。その後、水戸岡は、次々とアイデアに富んだ列車を九州で生み出し、二〇〇四年に開通した九州新幹線①の車両もデザインしていった。その内装でも日本の「和」を基本コンセプトとする独自の意匠を数多く施している。

九州以外にも水戸岡は数多くのユニークな列車を生み出している。長野県の軽井沢と長野を結ぶ「しなの鉄道」では、沿線②の上田市を本拠地とした戦国大名の家紋「六文銭」にちなんで「ろくもん」という列車をデザインした。和歌山にある「和歌山電鐵」でもユニークな列車を数多く作り出している。和歌山電鐵では沿線の名産品であるイチゴをモチーフにした「いちご電車」や、和歌山県特産の梅干しをモチーフにした「うめほし電車」を生み出している。

こうしたユニークな列車は鉄道ファンにとどまらず、多くの人々から注目を集めている。

(文章は本校国語科による)

(1) ——— 線①「九州新幹線」とありますが、九州新幹線の列車名を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア こだま イ ひかり ウ のぞみ エ とき オ つばめ

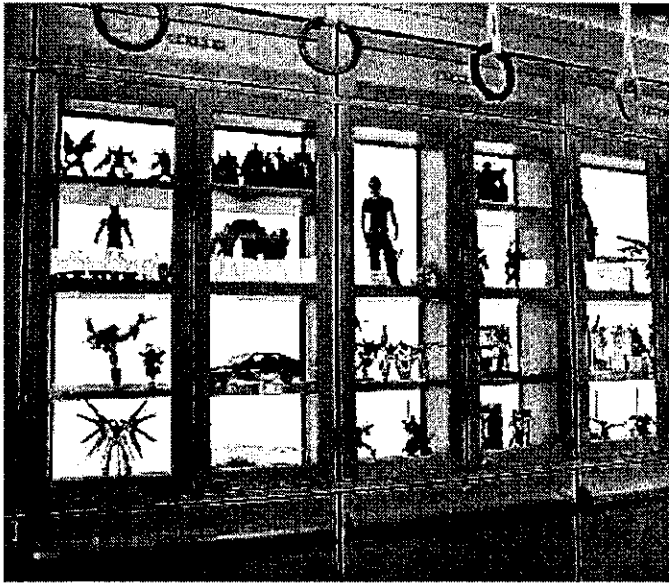
(2) ——— 線②「上田市を本拠地とした戦国大名」とありますが、その大名は何氏ですか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 武田氏 イ 上杉氏 ウ 北条氏 エ 真田氏 オ 今川氏

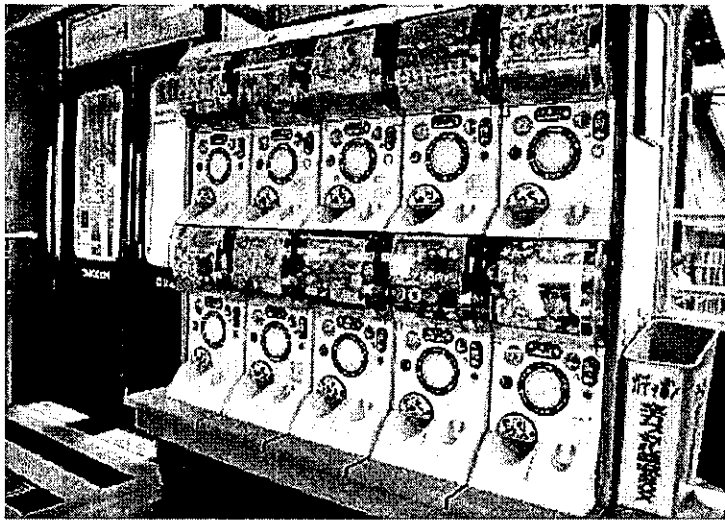
(3) 線③「和歌山電鐵」に関して、赤字ローカル線の「和歌山電鐵」では、「鉄」という字が縁起が悪いと考え、「鐵」という字を社名に用いています。なぜ「鉄」という文字は縁起が悪いと考えているのでしょうか。「鉄」という字の形に注目して、その理由を説明しなさい。

(4) 次の二枚の写真は水戸岡さんがデザインした「和歌山電鐵」に走っている列車の内装の写真です。この列車の名前は何だと思いませんか。次の空らんに入れる形で答えなさい。また、そのように考えた理由を説明しなさい。

(名前) 電車



(写真は和歌山電鐵のホームページによる)



〔二〕 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

町から遠くはなれないなかのことであります。その村には、あまり富んだものはありませんでした。村じゅうで、時計がたった二つきりしかなかったのです。

長いあいだ、この村の人々は、時計がなくてすん¹できました。太陽のほりぐあいを見て、およその時刻をはかりました。けれど、この文明の世の中に、時計をもちいなくては話にならぬというので、村^①の中の金持のひとりが、町に出たときに、その町の時計屋から、一つの時計を求めたのであります。

その金持は、今、自分はたくさん金をはらって、時計を求めるときを心の中でほり²としました。きょうから村の者たちは、万^{ばんじ}事の集まりや、やくそくの時間を、この時計によってしなくてはならぬと思つたからであります。

「この時計は、くるうようなことはないだろうな。」と、金持は、時計屋の番頭にたずねました。

「けつして、くるうようなことはありません。そんなお品ではございません。」と、番頭は答えました。

「それなら、安心だが。」と、金持はほほえみしました。

「この店の時間は、まちがいないだろうな。」と、金持はまたききました。

「けつして、まちがつてはいません。標準時にあわせてございます。」と、番頭は答えました。

「それなら、安心だ。」と、金持は思つたのであります。

金持は、買った時計をだいにじにして、自分の村へ持つて帰りました。

これまで、時計というものを見なれなかつた村^②の人々は、毎日のように、その金持の家へおしかけてきました。そして、ひとりで動く針を見て、ふしぎに思いました。また、金持から時間の見方を教わつて、かれらは、畑に行つても、山に行つても、よると時計の話をしたのであります。この村に、もうひとり金持がありました。その男は、村の者が、一方の金持の家ばかり出入りするのをねたましく思いました。時計があるばかりに、みんなが、その家へ行くのがしやくにさ^③わつたのであります。

「どれ、おれも、ひとつ時計を買つてこよう。そうすれば、きつとおれのところへもみんながやつてくるにちがいない。」と、その男は思つたの

です。

男は、町へ出ました。そして、もうひとりの金持が買った店と、ちがった店へ行きました。その店も、町での大きな時計屋であったのです。男は、いろいろな形の時計をこの店で見ました。なるだけ、めずらしいと思ったのを、男はえらびました。

「この時計は、くるわないだろうか。」と、男は店の番頭に問いました。

「そんなことは、けっしてございません。ほけんつきでございます。」と、番頭は答えました。

「その時計の時間は、あっているだろうか。」と、男はたずねました。

「標準時にあっています。」と、番頭は答えました。

「ねじさえかけておけば、いつまでたつてもまちがいはないだろうか。」と、男はねんのために問いました。

「この時計は、いく年たつても、くるうようなことはございません。」と、番頭は答えました。

男は、これを持って帰れば、村の者たちが、みんな見に来てくれると思つて、その時計を買つてだいにして村へ帰りました。

もうひとりの金持が、別の時計を町からもらつてきたというわさが村にたつと、はたして、みんながやつてきました。

「時計をどうぞ見せてください。」と、村の者たちが、口々にいいました。

男は、そういつてくるだろうと思つていたところへ、みんながやつてきましたから、得意になつて、

「さああがつて見なさい。なかなか機械のいい時計なんだから、この時間はかりは安心していいのだ。」と、男はいいました。

村の者たちは、時計の形がかわつていまして、

「やあ、これはめずらしい。」といつて、その時計の前に頭を集めてほめそやしました。

しかるに、ふしぎなことには、村に二つ時計がありました。どうしたことか、二つの時計は約三十分ばかり時間がちがってしまいました。どちらがちがっているのか、だれもそれを知ることができないのであります。

「この時計はくるつていない。標準時にあつてゐるのだ。」と、ひとりの金持がいいますと、

「この時計こそあつてゐるのだ。上等の機械で、町の時計にちゃんとあわしてきたのだ。」と、他の金持がいいました。

ふたりの金持は、たがいに自分の時計をただしといつてゆずりませんでした。ちょうど、二つの時計はお④ごそかなおきてのように、村の者は、

二つにわかれて、一方は、甲の金持の時計をただしといいました。一方は、乙の金持の時計がただしといいました。

今まで、平和であった村が、時計のために、二つにわかれてしまいました。時計は*のようになってしまったのです。

「今夜、六時から集まる。」と、いいあわしても、一方の者は、乙の金持が六時になると会場に集まりましたが、一方の者は、甲の金持が六時にならないので、集まりませんでした。それで、三十分あまりも、二つの時計の時間がちがっていましたが、前に集まった者は、あとからきた者にたいして、待たされたことをいいました。

「おれたちは、ちゃんと六時にきたのだ。こちらの時計にくるいはないはずだ。それは、おまえさんたちの時計がまちがっているからだ。」と、あとからきた者はいいました。

「いいや、私たちの方の時計はまちがっていない。おまえさんたちの方の時計こそまちがっているのだ。」と、前に集まった者がいいました。

こうして、時計によってそうほうが争ったのです。

「待つてやって、りくつをいわれるようじゃつまらない。さっさと時間がきたら、仕事をはじめてしま方がいい。」と、早い時間を信ずる組は、おくれた時間を信ずる者にかまわずに、相談を進めるようになりました。

こんなようなことで、つねに時間から、そうほうの争いがたえませんでした。そのうちに、ふとしたことから、乙の方の時計がこわれてしまいました。いままで、毎日まわっていた針が、まったく動かなくなってしまったのです。

神さまのように、その時計の時間を信じていた乙の方の組は、その日からまっくらになったように、まったく時間というものがわからなくなりました。

そうかといって、いままで、争っていた甲の方へ行って、時間をきくのもはじと感じましたから、「おれたちには、もう時間がないのだ。」といって、村の相談があつても、時刻がつねにまともありませんでした。

甲の組は、さすがに、自分たちの方の時計はくるわなないただし時計だと、いよいよその時計のありがたみを感じたわけです。こうなれば、乙の組の者も、こちらにしたがわなければならぬと思っていました。それで、相談があるときは、

「午後六時より。」というように、時間をきめて、乙の方へ通知をいたしました。けれど、時計を持たなくなった乙の方は、六時がいつであるかわかりません。こんなことで、いつも相談がはかどりませんでした。

⑦ 時計が二つあったときよりも、一つになったときの方が、村のまとまりがなくなつたのです。甲の方も、あんがい乙の方が自分たちにしたがつてこないのを知ると、こまつてしまつたのです。

「町へ行って、時計をなおしてこなければならぬ。」と、乙の方のひとりがいきました。

「なおしたってしかたがない。こわれるような時計は、もう信用することができない。」と、他のひとりがいきました。

「そうすれば、どうしたらいいのか。」

「こわれない、いい時計をさがしてくるよりしかたがない。」

「そんな、いい時計は、どこへ行つたら見つかるだろうか。」と、乙の方は、よると集まると口々にその話をしたのであります。

乙の金持は、「ことし、酒がよくつくれたら、遠い町へ行って、いい時計を買つてこよう。」といいました。

そうしているうちに、ふと、ある日のこと、甲の方の時計もこわれてしまつたのです。自分たちの方の時計は、けつしてくるうことはないといつて、いばつていましたが、ついにその甲の方の時計も、こわれてしまつたのです。

「やはり、時計なんかというものはだめだ。すぐにこわれてしまう。信用できるものでない。」と、ひとりがいいますと、「時計があつたつて、なくたつて、この一日にはかわりがないじゃないか。」とほかの一人がいきました。

甲の方では、乙の方の時計もこわれてしまつたのだから、いまさらいそいで新しい時計を町へ行って求める気にもなりませんでした。

乙の方でも、甲の方の時計がこわれたときいて、いまさら、いそいで新しい時計を求めるといふ気持ちがおこりませんでした。

村は、いつしか、^⑧時計のなかつたむかしの状態にかへつたのです。そして、たよるべき時計がないと思うと、みんなは、また、むかしのようになり、大空をあおいで太陽のあがりぐあい、時間をはかりました。そして、それは、すこしの不自由をもかれらに感じさせなかつたのです。時計がこわれても、太陽は、けつしてこわれたり、くるつたりすることはありませんでした。

「時計なんかいらぬ。お天道さまさえあれば、たくさんだ。」といつて、みんなは、はじめて、太陽をありがたがりました。そして、集会の時刻も太陽のまわりぐあいできめましたために、みんなは、またむかしのようになつて一致して、いつとなく村は平和におさまつたことでもあります。

(現代日本の名作23 小川未明著『時計のない村』より一部改変)

問一 文中の——線1「すんで」〜4「かわって」を漢字にあてはめて書くとしたらどれが正しいですか。次のア〜ウの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------|--------|--------|--------|
| 1 「すんで」 | ア 住んで | イ 済んで | ウ 澄んで |
| 2 「ばかり」 | ア 図り | イ 量り | ウ 計り |
| 3 「たつて」 | ア 建つて | イ 立つて | ウ 経つて |
| 4 「かわって」 | ア 変わって | イ 代わって | ウ 替わって |

問二 ———線①「村の中での金持のひとり」が、町に出たときに、その町の時計屋から、「一つの時計を求めた」とありますが、そのときの「金持」はどんな気持ちでしたか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア もうこれで、町のものから見て、いなかものだとかにされるようなことはないだろう、という安心した気持ち。
- イ だれもほかに持っていない時計を持つことは、村一番の金持であることの証明になるので、じまんしたい気持ち。
- ウ 時代の先に行く時計を持つことで、村にも機械化の時代をもたらすことができるのだという希望に満ちた気持ち。
- エ けっしてくるうことのない、品質のよい時計を買ったのだから人々が尊敬してくれるだろう、と期待する気持ち。
- オ 集会などのすべての村の時間を、この時計によって決定することになるだろうという、偉まくなつたような気持ち。

問三 ———線②「村の人々」は時計に対して、最初どのように反応しましたか。その説明になるように、次の□に一字ずつ入れる形で答えなさい。ただし2〜4は本文からぬき出し、1と5は自分で考えて答えなさい。

村の人々は、時計というものが、見なれていないものだったので、1□□に動く針を見て2□□□□□□思い、3□□□金持の家に4□□□□□□
しまうほど、時計に対して5□□□であった。

問四

——線③「しゃくにさわった」と同じ意味の慣用句はどれですか。もともとふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 腹が立った イ 根に持った ウ 肝かんをつぶした エ 腑ふに落ちなかった オ 肩身かたみがせまかった

問五

——線④「おごそかなおきて」とは、どのような意味ですか。もともとふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 正しい規則 イ 厳密なルール ウ 厳肅げんじゆなきまじり エ 正確な約束 オ 厳しい罰則ばつそく

問六

——線⑤「時計は*」のようになってしまったのです*」の*に入ることは何ですか。これより後の本文中から三字でぬき出し、答えなさい。

問七

——線⑥「こちらの時計」は、甲と乙のどちらの人々のものですか。答えなさい。

問八

——線⑦「時計が二つあったときよりも、一つになったときの方が、村のまとまりがつかなくなった」のはなぜですか。次の中からその理由の説明としてもつともふさわしいもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア 時計が二つあった時の方が、何を決めるのにも二通りの意見がぶつかり合って、村全体ではいつも議論が白熱していた。だが時計が一つになると、持たない組はただ相手の意見に従うしかなかったので、話し合いは形ばかりになり、結論は決まってしまうから。

イ 時計が二つあった時の方が、集合時間も正確に守ることができ、おたがいにわだかまりもなくきわめて平和であった。だが時計が一つになると、持つ組は持たない組を見下したので、見下された方では不満がつのり、それからは話し合ってもぎすぎすするようになってしまったから。

ウ 時計が二つあった時の方が、集合時間もだいたい一致していたので、話し合いは順調で、早々に結論が出せていた。だが時計が一つになると、持たない組がそのことで恥はずかしく思うようになり、わざと話し合いを引き延ばすようになったので、持つ方は怒おこってしまっただから。

エ 時計が二つあった時の方が、集合時間の不一致ふいっちはあったものの、やがていつの間にか議論が始まっており、語り合っているうちに自然と打ちとけていた。だが時計が一つになると、その一、の時計の所有をめぐって双方そうほうがゆずらなかつたので、敵対しあうようになってしまったから。

オ 時計が二つあった時の方が、集合時間は三〇分ほどで済すんだだけで、話し合いの場そのものはもたれていた。だが時計が一つになると、それを持つ組にしか時間が分からず、持たない方は恥はだと思おもって聞くこともしなかつたので、話し合いの場は完全になくなってしまっただから。

問九 ——— 線⑧「時計のなかつたむかしの状態」とありますが、時計の存在があたり前になっている現代の私たちにとって、時計を持ったことで失かえったのはどんなものだと思いますか。あなたの思うことを簡潔かんけつに答えなさい。

〔三〕

(1) 次の——線部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ直しなさい。

- ① 緑青ができる。
- ② 広島で平和センゲンが行われた。
- ③ えんぴつ、ナラびにボールペンを持つてくること。
- ④ 衣類のセンリヨウを洗い流す。
- ⑤ 古代のノウコウ社会を研究する。

(2) 次の①～⑤の□に一字ずつ入れ、()の意味になるように、慣用句を完成させなさい。

- ① □にも薬にもならない (害にもならない代わりに何の役にもたたないこと。)
- ② 煮ても□いても食えない (ずるがしこくて、とても手に負えないこと。)
- ③ □も涙もない (人間らしい気持ちや思いやりがなこと。)
- ④ 根も□もない (何の根拠もないこと。)
- ⑤ □死に一生を得る (死ぬかと思われる危険から助かること。)